ゲイ男性のカミングアウト
――心理的プロセスとセクシュアリティを示唆する言動に着目して

藤井良樹　ジェンダー学分野・専門 博士後期課程２年

調査概要　本調査は、研究プロジェクト「ゲイ男性のカミングアウト―心理的プロセスとセクシュアリティを示唆する言動に着目して―」による助成金を得て実施された。調査者は、「ゲイ男性がカミングアウトに関してどのような心理プロセスを経るのか」をリサーチクエスチョンとし、半構造化インタビューと構成主義的グラウンデッドセオリーアプローチによる分析を通して研究している。本調査では、計 4 名の調査協力者を募ることができた（なお、本調査実施までに 5 名の調査協力者へのインタビューおよび分析が終了していた）。

手続き　2021年 3 月16日～17日に福岡県在住の調査協力者 2 名へインタビューを行った。インタビューは福岡市内の某喫茶店にて実施され、一人当たり30–40分であった。次に、同年同月22日～23日に大阪府在住の調査協力者 2 名へインタビューを行った。インタビューは大阪市内の某喫茶店にて実施され、一人当たり30–40分であった。インタビュー前に、参加は自由意志によるものであり、途中の辞退、インタビュー終了後の辞退がともに可能であること、辞退による不利益も被らないことを説明した。そのうえで、研究の目的と意義、調査方法と所用時間、研究成果の公表の可能性、謝礼、研究者情報、本研究が名古屋大学大学院人文学研究科の研究倫理審査で承認されていること（承認番号：NUHM-19-004）を説明し、参加同意書に署名をしてもらった。その後、調査協力者の同意を得たうえで、インタビューを録音した。調査終了後、インタビューのトランスクリプトを作成し、データのコーディング作業を行った。そして、既済のデータと比較・検討を行った。

結果　既済調査の結果に本調査の結果を合わせたところ、①ゲイであることを隠す、②隠している感覚に罪悪感を覚える、③異性愛者を演じる、④カミングアウトは緊張する、⑤後ろ盾ができて安心する、⑥カミングアウトしなくてもいいと思う、⑦ LGBT に関するトピックへの異性愛者の反応を見る、⑧女性の方がしやすい、という理論的カテゴリーが得られた。これらは暫定的なカテゴリーではあるが、①～⑥は、ゲイ男性がカミングアウトにおいて経るプロセスに関わるものである。さらに精緻化し、その概観を描き出したい。⑦は、その手法が「日頃のコミュニケーションから判断する」、「同性愛への印象について質問をする」などいくつかのパターンがあった。より具体的な検討を行えるよう、引き続き掘り下げていきたい。最後に、⑧は、カミングアウトの相手に関わるものである。⑧についてはまだデータが十分とは言えない。家族や友人など相手による影響を、今後の調査によって明らかにしていきたい。